

ありませう。幸い、栗田氏も承平する處うそは貴族の
日本労働同盟と同様に當初以来骨肉の親し
みあり又鈴木氏のいふ所に依るに、西園体との提携
が近き実現する、程の友誼関係にある由ナルを本問狀
に關し、貴殿と鈴木氏との間の應答に依り一切の誤解
は重に残りを氷解すること、確信致しませう。
若し此の書面到達の折、未だ印語訳の愚貴組
に到着せざるや、未だ水玉印に依り私を改して
鈴木氏一督足いたしませ、生憎私の牛許を在り、文
の寫はありませうか、佛又の寫はありませうか、而も参考
に一部封入致しませう。

大正十三年二月十五日

玉條労働局東京支局

主任 浅利順四郎

日本海員組合長
橋本権太郎 殿